

歴

史資料館だより



No.103
教育委員会文化財課
文化財グループ
(☎58-5111・75-3111代表)

文化財課
ホームページ



鴨鳥五所神社保存修理で相次ぐ

新発見

鴨鳥五所神社本殿（大泉地区）の保存修理事業の完成が近付いてきました。

木造建築物は50年〜60年おきに大規模な修理が行われることが多く、特に屋根や縁廻りなど傷みややすい場所は、部材の交換も多くなります。

出来る限り多くの部材を後世に伝えようと、昔から大工たちが工夫を重ねてきましたが、それでも交換となる場合、元の部材を屋根裏などに保管することがあります。

しまわれていた墓股

今回の修理では、天井裏



残したということは分かり



から江戸時代の墓股が出てきました。上部の重みを分散して支える部材で、蛙が足を広げた様子に見えるので墓股と呼びます。その底部に「元禄四辛未弥生日 作者常州坂戸飯岡村浦田庄左衛門」と記されており、元禄4年（1691年）3月に飯岡村（西飯岡）の浦田庄左衛門が作成したことが分かります。小ぶりなので別の建物の部材かも知れませんが、記録の書かれたものを大切に残したということとは分かり

年代当てクイズ

他に板絵の一部も出てきました。内陣の天井板に転用されていたようですが、扁額だったのかも知れません。



裏には「十一己未十二月吉辰 再粉也」とあります。吉辰は吉日、再粉は彩色し直した、という意味ですが、元号の部分が失われて分かりませ

ん。さて、いつの11年なのでしょう。

答えは寛政11年（1799年）です。鍵は干支の「己未（つちのとひつじ）」です。干支は甲乙丙の十干と十二支の組み合わせなので60年に一度しか同じ干支は巡って来ません。年表を見ると、11年があっ

建築当初の部材

現在の社殿は500年以上前の建立ですが、当時の部材も残っているのでしょうか。

屋根や縁廻りの他、一部の柱や扉も交換されていますが、主な柱や貫は当初とみられます。また、内陣の床板を下から見ると、不整形になっています。鋸で板を切り出したのではなく、楔を打って割り剥ぐ打ち割り製材を行った跡が見えます。この工法は室町時代まで使われており、室町時代の建物であることを証明しています。



土曜・祝日も営業



【茨城県指定】地域リハビリ・ステーション

- ・通所介護（3時間・1日・送迎あり）
- ・居宅介護支援（ケアマネジャー）

リハビリハート総合介護ケアセンター

理学療法士 本橋 寛樹

介護・リハビリのご相談や見学 **0296-73-6965**

桜川市西桜川2-18-5

国道50号沿い マクドナルドさん南側 茨城トヨタさんとなり